

ビジネスの現場では“鳥の目”のような「複数の視点」を持て!

(東京大学 藤井総長)

— 単なる知識よりも「問い続ける力」、多様性を尊重し「つなぐ力」など、人間としての基礎的能力を! —

本誌編集長 佐藤 公 (さとう たかし)

(2026年陽春号)

今年もこの3月に全国の大学では学部卒業式が挙行され、総長(学長)の告辞、激励の言葉を胸に、若者は希望と不安の社会へ巣立つた。

現在我々は、人口減少・少子高齢化、大規模な自然災害や環境問題、そして最も不安定な国際情勢(戦争か平和か)など、様々な問題に見舞われており、先行きを見通すことが困難な状況にある。では、このような社会の現実に直面する卒業生(新社会人)に、大学のトップはどのような言葉で告辞を述べたのか。卒業式での総長告辞はその年の世界情勢や社会の空気がよく表れている。

一方、新社会人を迎える企業の入社式が4月1日に一斉に行われたが、ここで企業トップはどんな歓迎の言葉で迎えたのか。主要自動車メーカー社長の祝辞を見た。

(いずれもHPから)

北大創基150周年

「光は北から」そして「北から世界へ」

まず、北海道大学 實金清博 総長による告辞から。

「北海道大学は、今年、創基150周年を迎えます。この150周年を迎える私たちが選んだ言葉は、『光は北から』というメッセージです。光は、まさに、皆さん一人一人を意味しています。皆さん一人一人の強い光が、一隅を照らし、それはやがて重なり合って、世界を照らすでしょう。私は『光は北から』

という言葉に続けて、『北から世界へ』という言葉を続けています。どうか、皆さんの北からの光が世界を照らすことを期待しています。」

次に、東京大学 藤井輝夫総長は「今日は、みなさんの未来を構想する指針となるかもしれない、二つの問いについて考えたい。その問いは、私たちは次の世代のために『どのような社会を築いていくべきなのか』です。それはまた、『どんな人生が望ましいのか』という、みなさん自身の理想や目標を問うことでもあります。」

世界では今、かつてない深刻さにおいて、対立が激化し、分断が深まっています。こうした対立や分断の極限形態が『戦争』でしょう。現代の戦争は、ウクライナや中東などで今も続いている。銃や無人機をつかった武力衝突だけではなく、サイバー攻撃や、偽の情報、食料やエネルギーの不足など、さまざまな形で人びとの日常生活がおびやかされ、その影響は経済の混乱や難民問題などをつづじて、世界全体を巻きこんでいます。

21世紀の国際関係は、主権国家を単位とする制度として完結するものではなく、多様な組織・集団が複雑にからみあう多層的複合的なシステムです。『敵か味方か』の単純な二分法で割り切ってしまうと、可能だったかもしれない対話が難しくなり、理解を拒んだままの分断が深まるでしょう。私は、現代の錯綜する課題に向

きあうためには、二つの見方にとらわれず、ものごとを多角的にとらえ、新たな可能性をつくりあげる事が大切だと考えています。ビジネスの現場では、『鳥の目』『虫の目』『魚(さかな)の目』といわれるような、複数の視点をもつことが重要だといわれています。

『鳥の目』は、視点を引き上げ、『世界を俯瞰すること』を可能にしてくれます。私たちは、ともすれば、自分の立場や所属、価値観の内側だけから世界を解釈し、理解しようとしてしまいます。しかし、次元の違うところから見わたすと、別の可能性が見えてきます。」

一方、次世代を担う新戦力を迎えた自動車業界の社長は、入社式で何を語ったのか。

4月1日付で就任したトヨタ自動車 の今健太社長(57)は、『もういいクルマづくり』や『幸せの量産』といったビジョンは変わらない。全員がもつといいクルマづくりをすることが大事。課題や改善するべきことは多々あるが、今何ができるかにフォーカスして(事業を)前に進めたい。そして次の100年につなげていく。そのためには私たちが一人ひとりが自分自身を成長させることだ』と新入社員2317人を激励した。

また、4輪電動化戦略の転換を進めるホンダは、この3月に北米向け電気自動車(EV)3車種、ニグループとの協業EVの開発発売中止を決定した。

三部敏宏社長(64)は新入社員

999人を前に「現実と正面から向き合い、4輪事業を中長期で成長できる構造へと転換していく。それが、いま私たちが取り組むべきことだ」と訴えた。そしてホンダのDNAである『チャレンジングスピリット』『失敗から学ぶ文化』を新入社員にも引き継いでほしいとも語った。また技術だけでなく、『人をワクワクさせる発想』を大事にし、自分なりの価値を出してほしいと期待を語った。

2026年度の自動車事業黒字化を目指した経営再建計画「Re・Nissan」を進行中の日産自動車は、横浜市西区のグローバル本社で2600人の新入社員が入社式に参加。

イバン・エスピノーサ社長(46)は「現在『Re・Nissan』(リ・ニッサン)計画の中間地点で事業の安定化と持続的成長に向けた基盤づくりを着実に進めている。次の成長に向け力を再構築する重要な局面。皆さん一人ひとりが主体的にこの変革に関わることを期待している」と語った。

最後に、社会で求められている人材とは、1に人柄、2に意欲継続3に能力。そして、これからのリーダーに最も必要なのは、謙虚さと思いやり(包容力)、決断力、実行力である。

本当に実力のある人は誰に対してもごたわりがなく、謙虚なほどこに控え目なものである。(青木匡光著「いつの時代もEQ型人間が成功する」)